



JFS-B 規格で顧客からの信頼を獲得



JFS-B 規格適合証明取得 東京油脂工業株式会社様（食用油の充填）

千葉県船橋市に本社を構える東京油脂工業株式会社様は、ポーソー油脂グループの一員として、主に食用米油、食用菜種油、食用調合油を充填しておられます。日本で初めて食用の米油を製造した歴史ある企業であり、2004年にポーソー油脂のグループ会社となりました。本社のある京葉工場は、食用油を容器に充填するという非常に重要な工程を担っています。京葉工場で充填された食用油は、ポーソー油脂のブランドで日本全国に出荷されます。大きな企業グループの一員ということで食品衛生は徹底しており、数多くのクライアントから信頼を獲得しています。東京油脂工業様は、2024年2月に京葉工場において、JFS-B規格を取得されました。今回は、JFS-B規格の取得にむけた取り組みを主導された品質管理課の山本薫平様と西澤美恵子様を取得の目的や今後の活用ビジョンについてお話をうかがいました。

—京葉工場でJFS-B規格を取得された目的をお聞かせください。

西澤：京葉工場は2018年に新設された工場で、私も含め、食用油の充填という業務を経験したことのある社員は誰もいませんでした。そのため、油の充填業務における、明文化された会社独自の食品衛生のルールがなかったのです。品質管理課としても、なにかしらの対策が必要だと考えていました。お客様から信頼していただくために、京葉工場になにが必要なのか考えたとき、信頼性の高い認証（適合証明）を取得するという結論に至りました。

—数ある認証（適合証明）の中から、なぜJFS-B規格を選ばれたのでしょうか。

西澤：京葉工場では、新設されたばかりの頃からPB（プライベートブランド）製品の製造を受託していました。顧客からはPB製品を作るためのチェックリストを共有されていたのですが、それがJFS-B規格に基づいて作成されたものだったのです。京葉工場でなにかしらの認証（適合証明）を取得することが決定したとき、JFS-B規格であれば取得しやすいのではないかと意見が親会社であるポーソー油脂からも挙がり、非常に使いやすい認証（適合証明）であるという評判も聞いていたので、取得にむけた取り組みをスタートさせました。

—JFS-B規格を取得するための取り組みを進めるなかで、ポイントになったのはどこでしたか。

山本：やはり、食品衛生に関するルールを明文化するには苦勞しました。参考になる資料などもない状況だったので、いろいろの方に協力してもらいながら進めていきました。ただ単に明文化すれば良いというものではなく、現場の社員にも分かりやすい文章にする必要がありますから、何度も推敲を重ねました。大変だと感じる時もありましたが、私自身にとって大きな成長の機会になったと考えています。結果的に満足いくものができましたし、一生懸命に取り組んだ甲斐があったと思います。





—実際に JFS-B 規格の内容をご覧になられて、どのように感じましたか。

山本：率直に言って、かなり分かりやすかったです。いくつもの要求事項が書かれているのですが、要求事項ごとにガイドラインがあるのが親切だと感じましたね。ガイドラインは非常に細かく書かれていて分かりやすく、認証（適合証明）を取得した経験がない私でも、安心して取り組みを進めることができました。何かしらの認証（適合証明）を取得した経験がある方であれば、非常にスムーズに取り組みを進められるのではないのでしょうか。

—JFS-B 規格の取得に対する現場の社員の方の反応はいかがでしょう。

山本：これまで認証（適合証明）なしで食用油の充填をやってきて、それが当たり前になっていたので、現場の社員は「そんな難しそうなのを取ったのですか！」と驚いていましたね。認証（適合証明）に沿って充填するとなると、どうしても手間が増えてしまう工程もあるので、慣れないうちは現場の社員に負担をかけてしまうかも知れません。しかし、仕事熱

心な社員ばかりですから、きっと慣れてくれるはずですよ。現場の社員が協力してくれなければ意味がありませんから、品質管理課としても現場の社員とのコミュニケーションを増やし、取得のメリットを丁寧に伝えていっています。

—今後、JFS-B 規格をどのように活かしていこうとお考えですか。

西澤：顧客からの信頼獲得のために JFS-B 規格を活用していきたいですね。これまで、親会社の取引先（販売先）などから、何かしらの認証（適合証明）を保有しているかどうかについて確認されることが多々ありました。これまでは「認証（適合証明）はありませんが、衛生面は厳しくやっています」というお返事しかできませんでしたが、今後は JFS-B 規格を取得したということを中心に押し出していこうと考えています。信頼に値する第三者機関が当社の食品衛生のレベルを担保してくれているわけですから、これほど心強いものはありません。顧客からの問い合わせに対応するコミュニケーションコストも削減されますし、JFS-B 規格の取得は大正解だったと認識しています。

—今後、他の認証（適合証明）を取得するご予定もあるのでしょうか。

山本：将来的には、JFS-C 規格を取得することも視野に入れています。JFS-B 規格を取得したことで、何かしらの認証（適合証明）を取得するためのノウハウが蓄積しました。これを上手く活かすことができれば、比較的スムーズに JFS-C 規格を取得することも可能なのではないかと考えています。

—JFS-B 規格の取得は、ポーソー油脂グループ全体にとっても影響が大きいのでしょうか。

西澤：ポジティブな影響を与えられたと自負しています。当社の京葉工場で充填された食用油の販路を拡大するのは、親会社であるポーソー油脂の営業のみなさんですが、せっかく取得した認証（適合証明）なのですから、思い切り営業活動に活用して欲しいですね。グループの中で JFS 規格を取得したのは当社が初めてなので、他の会社が取得するときには情報共有をするつもりです。今後、グループ全体の成長に大きく貢献できるのではないのでしょうか。

—これから JFS 規格の取得を検討している企業にメッセージをお願いします。

山本：当社が取得したのは JFS-B 規格ですが、決して簡単に取得できるものではありません。しかし、取得するメリットは非常に大きいと考えています。取得に向けた取り組みを進めるなかで、製造ラインの「弱点」のようなものも可視化されるので、そこを着実に改善していきます。それを繰り返しているうちに食品衛生のレベルは向上し、最終的に認証（適合証明）を取得することができるはずです。取得の近道はなく、真摯に進めていくのが最善だと言えます。製造ラインの効率化にもつながりますし、会社全体が得られる利益は大きいと考えています。ぜひ取得を前向きにご検討ください。

—本日はありがとうございました。



Company Profile

社名 東京油脂工業株式会社
代表 久米田 淳
住所 京葉工場
〒273-0014
千葉県船橋市高瀬町 15-10
創業 1938年
URL <https://www.boso.co.jp/group.html>